

渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36局6503

上町商店街から セントファールに

セントファールの敷地内の一部にかつて上町商店街がありました。

江戸時代から田原のメインストリートである本町と並んで、上町は、田原の商業の中心地でした。大正時代には銀行、芸妓置屋、銭湯、寄席などもありました。

昭和20年代には、江戸・明治の創業である店も含めて呉服店、衣料品店、金物店、陶磁器店、玩具店、酒店、電気



●田原町工商案内(昭和32年)

店など会員数14名からなる上町発展会が結成されました。ネオン灯の設置、のど自慢大会、大売り出しでは各店のオート三輪車を宣伝カーに仕立て渥美郡内を巡回して、渥美半島の中核的な商店街となりました。

好景氣を迎えた昭和38年、隣接地に渥美半島で最初のセルフサービス方式の白木屋スーパーマーケットが開店しました。昭和40年代には、簡易アーケードも設置され、買い物客、通勤通学者、渥美病院への通院者などでにぎわい、当時の人口3万人弱の町としては大いに栄えた商店街でした。

昭和50年代に入るとトヨタ自動車などの田原臨海工業用地への企業進出により、田原町の人口は急速に増

加。道路が整備された

ことなどもあり、昭和56年、田原

ショッピングセンター(パオ)が開店しまし

た。車社会

の到来となり、生活行動圏もひろがり、品ぞろ

り、豊富な大型店が消費者の支持を集

めました。隣接する豊橋市において

も大型店が充実してきました。

地元商店での購買率が下がり、豊

橋商業圏などへの消費購買の流出が

進む中、駐車場不足など車社会への

対応が遅れた上町商店

街は、商業力の衰退が

みられるようになりま

した。

このような状況のも

と、地域住民から市街

地再開発に対する要求

が高まり、都市計画道

路田原駅前通り線の計

画決定をふまえ、昭和



●セントファールと駅前通り線

53年2月に田原町市街地再開発推進協議会が発足しました。昭和63年8月には地権者41名による田原中央地区市街地再開発準備組合が設立され、組合施工での取り組みが始められました。

一部反対者もあり事業主体を町に切り替え、中心市街地活性化法による国からの助成を受け、平成16年7月18日に、フードオアシスあつみなど15店舗からなる複合商業施設セントファールがオープンし、現在に至っています。

これに併せ周辺の道路も拡幅整備され、平成25年10月27日に田原駅前通り線が開通しました。

(執筆委員・山本正樹)

今月の「表紙」

▼冷たい空気が漂う寒い日、夜空を見上げると、無数の星がきらめく空間が広がっています。久しぶりにしつかり眺めた夜空に驚いたことは、半島上空を通過する航空機の多さと、星々の移動するのが思いのほか早いこと。来年が皆さんにとって星のように輝く一年になりますように(H)

【表紙の写真】新鮎川橋から眺める星空(和地町)